

The origin of Juzen

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30253

「十全」の由来

The origin of Juzen

金沢大学大学院医学系研究科脳・脊髄機能制御学
(脳神経外科学)

濱 田 潤 一 郎

あまりにも大きい地震でした。加えて大規模の津波が3波にわたって逃げる暇もなく早く三陸地方を襲いました。加えて福島の大東電力原発が制御不能に陥るという人災まで起こり、気の毒としか言いようがありません。被災者の人々の苦難を思えば普通に不自由なく生活出来ていることが申し訳なく思えます。この危機は我々国民が一体となって乗り切っていかなければならないし、その為ならば多少の不便や、負担は厭わないと言うのが大方の国民の今の気持ではないでしょうか。再起、回復をお祈りします。

さて、縁もゆかりもない金沢の地に参りまして、はや6年が過ぎました。そういう私が、「十全」の由来について、本医学会雑誌に寄稿させていただくのは、奇異な感じがするかもしれませんが、本医学会雑誌には欠かせない言葉だなど思いましたので、その出典由来について調べてみました。調べてみましたといひましても、ほとんどが諸先輩方の受け売りや文献の引用であることをご容赦下さい。

「十全」という言葉の意味を、最初に教えていただいたのは、現学長の中村信一先生からです。確か4年前の小松から羽田に向かう飛行機のなかでした。先日、家内と一緒に、片町方面から犀川大橋を渡り、野町広小路に向けて100メートルほど歩いた右側にある神明宮神社にお参りにいきました。神明宮神社は金沢旧五社のひとつで、ちょうど5月15～17日は「あぶり餅神事」の春祭りがあります。境内であぶり餅を食べると身体の悪事息災を免れるといわれていますので、あぶり餅を2本求め、夫婦で食しました。その瞬間、中村信一先生から教えていただいた妙慶寺という名前と、そのお寺がこの近所にあることを思い出し、神社の巫女さんに場所を尋ねました。

その後、犀川大橋南詰まで引き返し、道路を反対側へ渡り、蛤坂を100メートルほど歩いて妙慶寺にたどり着きました。妙慶寺は文和2年(1353)、後醍醐天皇の第八皇子宗良親王が寂蓮社城眷円阿を招き越中国牧野村(現富山県高岡市)に開いたのが始まりと伝えられ、天正13年(1585)、二代藩主・利長公の家臣となった松平康定が佐々成政との戦において本寺の境内を本陣とした縁で松平家の庇護となりました。そして、元和元年(1615)三代藩主・利常公から寺領を現在地に拝領して移りました。明治28年(1895年)2月、この妙慶寺で学生・職員・教授の間を「円満融和に進行させる」ことを目的として、「十全会」が結成されたと、先年鬼籍に入られた金沢大

学名誉教授西田尚紀先生が特別講演(昭和36年)のなかで述べておられます。発足当時は、この十全会が、学友会、同窓会、医学会の三者を併せ含み、後になってそれぞれが独立して活動するようになりました。したがって、十全医学会の名前はこの十全会から由来することになります。

さて、「十全」を辞書で引くと、「少しも欠けたところがないこと」とか「十分に整っていて危なげのないこと」、つまり「完全な」ということでしょうか。「十全」という語が医学と関連して最初に記録に表れるのは古代中国の周の時代(紀元前1,200年～前256年)の周礼(しゅうらい)の中です。儒家が重視する経書、十三経のひとつで、「儀礼」「礼記」とともに三礼のひとつです。周王朝の理想的な官僚組織について周公旦が記した書物であるとされています。

この周礼の第2巻、天官冢宰下のなかに「十全为上。(十ナガラ、イヤスヲ、上ト為ス。)」という言葉がでてきます。書き下し文が極めて苦手なので、お許しを願って、この前後の文節の現代語訳のみを書きますと、「医師は医療の政令を司る。我が国の病氣や外傷の患者は、それぞれの能力を持った医者に分けて治療を受けさせる。一年が終わって年間の医療の実績を検討し、その食録を制定する。十のすべてを全(イヤス)すのを「上」とし、一割の失敗、二割の失敗、三割の失敗が続き、四割の失敗をすれば、これを「下」とする。」となります。全は「癒す(いやす)」に通じ、いまだ現代医学においてさえ不治の病があるわけですので、病氣を完治させるという意味ではなく、処置対応が的を射ていれば良いということだと思います。医師は常に人の命を預かっていますので、終生勉強を継続する立場にあり、怠ればすぐに下の下、すなわち落第するぞという戒めの言葉でもあり、医師の本質を指し示しています。また、三千数百年前も及第点は六割だということにも、妙に感心させられます。

さて、本学の十全の意味として、最新の医学知識と技術を身につけることは当然ですが、さらに自分が得た教養を背景とした人間性のすべてを動員して診療にあたることだと解釈し、これを自分勝手に「十全医学」と命名しています。そして、金沢大学医学部の卒業生が、金沢大学では「十全医学脳神経外科学版」を学びましたと、胸を張って言えるような講義・臨床実習をするように、これからも心がけようと思います。